令和６年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究８	公益目的事業 16
主査名	岡村敏之　東洋大学教授	
研究テーマ	アジア地域での MaaS や CASE などのモビリティ技術の社会実装に関する事例分析	

研究の目的：

経済活動が拡大し交通需要と自動車需要の伸びが継続的に見込まれるアジア地域の新興国を中心として，MaaS や CASE などのモビリティ技術のマクロ的な動向を把握したうえで，社会実装の現状と課題について，主にタイ，インドネシア，フィリピン，ベトナム，中国を想定して調査対象を設定しそれらの情報を収集し，モビリティ技術の社会的普及の動向を俯瞰することを目的とする。

研究の経過（4 月～3 月）：

研究会としては 2 回開催を行った。メンバーによる現地訪問等の機会を活用した技術実装の資料収集を積極的に行い、それらも研究会で適宜報告された。

10 月 28 日の研究会では、資料調査として、都市内ケーブルカーの技術の現状が報告された。現地訪問による資料収集としては、フィリピンでの自動運転および EV の実装実験、電動キックボードおよび電動自転車シェアリングのサービスの実証実験、大手ショッピングモール（SM）の駐車場における無料の充電設備導入などのショーケース的な試みが報告され、加えてエクアドルの首都キトでのトロリーバスによる BRT の運用状況の調査、および現地政府等へのヒアリングの結果が報告された。さらに、カトマンズ（ネパール）、タイ（バンコク）の事例などもあわせて報告された。

12 月 10 日の研究会では、資料調査として公共交通の運賃支払いに関する報告がなされた。現地訪問による資料収集としては、バンコク（タイ）での 3 輪の電動トゥクトゥクの配車アプリと 4 輪の配車アプリ（Ride Hailing）の現状とそれらの利用特性に関する調査結果が報告された。また、ベトナムでの現地企業（Vin グループ）による EV の普及と都市開発（主にホーチミン）の現状が報告された。

研究会での具体の報告以外にも、インドネシアでの配車アプリ、中国における EV と自動運転実証実験に関する調査研究が研究メンバーによってなされている。

研究の成果（自己評価含む）：

研究会のスタートが遅くなったのは反省点であったが、各メンバーのそれぞれの研究フィールドにおいて、現地訪問も含めた資料収集を通じて、モビリティ技術の社会実装の事例収集を順調に進めることができた。

今後の課題：

社会実装の段階では、ショーケース的な実験に留まるものもあれば、スピード感を持って普及が進むものもあり、それらを俯瞰するためにはより多面的な事例分析を進めていくことが必要である。報告された事例も含めて継続的にモニターしていき、社会実装の進展状況を常に把握していきたい。